



○院内学級の教員が気を付けると良いこと

- 原籍校の教員に学習進度や院内学級での様子等を伝える。

院内学級在籍中の学習進度や学習の様子、院内学級の仲間との関係、評価等、できるだけ紙面にして伝えるようにするとよいです。その中には、院内学級で本人が頑張った様子や発言等、原籍校の教員が本人とのコミュニケーションのきっかけとなるようなエピソード等があるとさらによいです。

- 関係者が情報を共有するための連携会議を医師、看護師等と協力して開く。

(保護者、原籍校の教員、医師、看護師等)

本人が原籍校に復学した時、体調面や学習面でつまずかずに学校生活を送ることができるよう、関係者が一堂に会し本人の状況や配慮事項について共通理解を図ることが大切です。また、実際に顔を合わせて自己紹介等をしておくと、その後の支援において連携がし易くなることも多いです。

連携会議は、退院時に医療者が開くこともありますが、医療面としては必要ない時には開かれないケースもあります。そうした時には、是非学校関係者が中心となり開催できるように調整するとよいです。

そして、退院後も本人の支援に引き続き協力してください。院内学級に直接連絡する方法や学校に連絡してもらう方法等、自分につながりやすい方法を伝えておくとよいです。ただ、院内学級の一教員として動ける内容のことばかりではないので、できるだけ学校として相談を受けていくとよいです。そのため、窓口は学校の教頭等、管理職にお願いすることが大切です。